

## 表面張力

雨の予感が  
くう空を舞うシテを  
遥かな視線に沿って運び  
時はねじれるかのように振る舞い  
おしなべて  
人は気づかぬうちに  
街を  
その艶麗に薄く漂いたなびく無に対する触感で自ら満たしてゆく  
そと  
そと...

生は息づくか  
白く磨かれてひんやりとした岩と

温かい肌は漂泊を促す  
我はぬくもりを盗み歩く者なり

天蓋を覆う雲から雲へと渡り歩くまいびと舞人  
その衣から撒き散らされる夢幻の種子

目の当たりにする肢体は反り返り  
私が抽するものを呑み込んでゆく  
喜悅とも苦渋とも定かならぬしびれとともに  
舌なめずりして

雨の予感が導くのか  
雨が待ち受けている  
雨  
雨... その表面張力が世界を見下ろしている

(2001.11.3)